

### 3 視覚障害者を対象にした教育支援の試み

#### ー短期訓練プログラムがPC操作へ及ぼす効果ー

1) 国立塩原視力障害センター

2) 国立身体障害者リハビリテーションセンター

森定 真<sup>1)</sup>、小林 好彦<sup>1)</sup>、秋山 仁<sup>1)</sup>、佐取 幸枝<sup>1)</sup>、梶原 清隆<sup>1)</sup>、小山奈美<sup>1)</sup>、  
舘田 美保<sup>2)</sup>、北村 弥生<sup>2)</sup>、河村 宏<sup>2)</sup>、岩谷 力<sup>2)</sup>

【目的】理療教育では、利用者の効率的な学習方法にPCを基盤としたマルチメディア（音声・テキスト・画像・点字）教材の活用を到達目標に設定している。また、PCは複数のチャンネルを有するマルチメディアの活用に必要な情報機器として位置づけているが、利用者の多くが学習に必要な基本操作を習得していない。そこで、到達度及び、より良い学習環境を構築するために、少人数を対象にしたPC短期訓練プログラムを導入し、その有用性を検討した。

【方法】国立塩原視力障害センターの利用者11名を対象にコントロール群と訓練群の2群に分け、1日3時間の訓練を5日間連続して行った。訓練は①タッチタイピング、②文章作成、③ファイル管理、④スクリーンリーダーの設定、⑤読み辞書への登録、⑥DAIZY 図書の再生など14項目の指導プログラムに基づいて実施した。効果判定は学習の到達度を、独自に作成した評価尺度（32点満点）を用いて訓練開始前、訓練5回終了後、訓練終了1ヵ月後にそれぞれ評価した。

【結果】訓練による学習到達度は、訓練開始前コントロール群で $12.4 \pm 2.9$ 点、訓練群で $12.5 \pm 6.4$ 点であり、各群ともほぼ同程度であったにも関わらず、5回終了後には、コントロール群で $14.4 \pm 4.3$ 点、訓練群で $23.3 \pm 7.0$ 点と訓練群のみ開始前と比べて統計学的に有意差を認めた（ $P < 0.05$ ）。また、訓練群とコントロール群との間で有意な差を認めた（ $P < 0.05$ ）。一方、終了1ヵ月後にはコントロール群で $16.2 \pm 4.4$ 点、訓練群で $20.3 \pm 10.9$ 点と訓練群のみ点数が減少する傾向を示した。

【考察・結語】以上の結果から、少人数制のPC短期訓練プログラムを導入したことで、利用者への訓練効果は高いことが示唆された。また、学習内容の定着には継続的な支援を提供していくことが重要であると考えられた。今後、利用者の効率的な学習方法の獲得を目的とした入所時早期の訓練プログラムの導入を検討する必要性が考えられる。